

令和6年度地球観測技術等調査研究委託事業
「宇宙ルール形成に着目した
文理融合×産官学連携による人材創造プログラム」
委託業務成果報告書

令和7年5月
学校法人学習院 学習院大学

本報告書は、文部科学省の地球観測技術等調査研究
委託事業による委託業務として、学校法人学習院 学
習院大学が実施した令和6年度宇宙ルール形成に着
目した文理融合×産官学連携による人材創造プログ
ラム」の成果を取りまとめたものです。

目次

1	はじめに	1
1.1	委託業務の目的	1
1.2	業務の方法	2
2	実施内容	4
2.1	全体統括及び全学共通科目開講	4
2.2	宇宙ビジネス国内及び海外研修	16
2.3	宇宙法模擬裁判大会、国際シンポジウム実施	27
3	まとめ	35
4	添付資料	38

1 はじめに

1.1 委託業務の目的

宇宙分野の裾野拡大と宇宙活動を支える人材の育成は、我が国の喫緊の課題である。そのためには、自然科学分野に加えて、人文・社会科学分野の人材が宇宙分野に参画する機会を作り、大学での人材育成基盤を確立する必要がある。

本委託業務では、宇宙ビジネスにおける宇宙ルール形成を主導する人材の育成を目指す。

第一に、宇宙法や宇宙技術開発、宇宙ビジネス、宇宙考古学など文系・理系の学生が宇宙分野(宇宙利用)について参画する機会を創出するために、全学共通科目「宇宙利用論」を開講する。

第二に、宇宙ビジネス分野における人材育成として、宇宙技術開発の現状とビジネスに展開する上での課題を学び、それらの学びから新たな宇宙ビジネスに展開できる事業提案能力の育成を行うために、宇宙ベンチャー企業と連携し宇宙ビジネスに関する国内研修及び海外インターンシップを開発する。

第三に、宇宙ルール形成分野における人材育成として、各国の宇宙法分野の研究者との人材及び研究交流の場を創出し宇宙ルールの形成に必要となる国際コミュニケーション能力を育成するために、国際宇宙法学会(IISL: International Institute of Space Law)による宇宙法模擬裁判大会アジア地区大会及び宇宙法国際シンポジウムを開催する。

1.2 業務の方法

令和 6 年度は以下の通り各事業を実施した。

① 全体統括及び全学共通科目継続開講

a.全体統括 事業全体の進捗を把握するため、統括会議を 4 回開催した。

b.全学共通科目継続開講

全学共通科目「宇宙利用論」を継続開講した。人文・社会・自然科学の研究者による講義を実施した。また、宇宙ベンチャー企業等の外部機関と連携して講義を継続実施した。

令和 7 年度の大学入学予定者向けにプレ講義を実施し、履修者数確保に向けた積極的な取り組みを行った。

② 宇宙ビジネス国内及び海外研修実施

宇宙ビジネスに関する国内及び海外研修を実施した。

国内研修については、令和 5 年度に引き続き宇宙ベンチャー企業と連携して宇宙技術開発の現状を学び新たな宇宙ビジネスの提案を行う研修を実施した。

海外研修については、海外現地訪問による海外研修を実施した。日本の宇宙産業及びその他の企業から、事業を海外展開する際の現状と課題について学んだ。

③ 宇宙法模擬裁判大会アジア・太平洋地区大会及び国際シンポジウム実施

宇宙法模擬裁判大会アジア・太平洋地区大会及び終了後に関連事業として大会参加者や国内外の宇宙法研究者による国際シンポジウムを実施した。模擬裁判大会については書類選考の上 16 チームを招へいた。裁判官役として国内外から研究者と実施本部である IISL 理事等の関係者を合計 22 名招へいた。模擬裁判大会実施に併せて宇宙法に関する国際シンポジウムを開催した。

④ 広報活動

本課題の研究協力者や協力機関の確保、及び本課題の成果をより広く普及させるための広報活動についても積極的な取り組みを行った。

具体的には、宇宙ビジネス国内研修を日本橋の宇宙産業イベント SpaceWeek で実施した際には、BS テレ東にて令和 6 年 12 月 22 日(日)16 時～16 時半、「日本が挑む！シン・宇宙ビジネス～ラストフロンティアの引力～」にて放映された。

北海道大樹町、スペースコタン社との産官学連携協定を締結し本学で調印式を実施したことをプレスリリースした結果、令和 6 年 11 月 21 日(木)に Yahoo！ニュースに掲載された。

⑤ 自発的な研究活動等

自発的な研究活動等に関する実施方針に基づき、所属機関が認めた範囲で自発的な研究活動等を推進した。

2 実施内容

2.1 全体統括及び全学共通科目開講

統括会議の実施

本事業の実施にあたり、統括会議を4回実施した。日付、議題は以下の通り。

- 1 回目 日付 令和6年6月10日(月)
議題 宇宙法模擬裁判大会、宇宙法国際シンポジウム、各事業進捗確認
- 2 回目 日付 令和6年7月30日(火)
議題 海外研修(シンガポール)運営方法
- 3 回目 日付 令和6年11月20日(水)
議題 北海道大樹町地域連携協定、宇宙ビジネス国内研修企画案
- 4 回目 日付 令和7年1月31日(金)
議題 宇宙ビジネス国内研修実施方法

全学共通科目開講

全学共通科目「宇宙利用論」を以下の通り開講した。

 学習院大学 GAKUSHUIN UNIVERSITY

G-Port

文字サイズ 大

HOME | 学生支援 | 施設管理 | シラバス | 図書館ログイン | LMS

⚠️ ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください/Please don't use the "Back" button on your browser.

シラバス参照

🔍 検索結果一覧へ戻る

➡️ お気に入りに追加する

講義コード/Subject Code	U853401001
科目ナンバリング/Course Numbering	007D085
講義名/Name of Subject	宇宙利用論
英文科目名/Name of Subject [English]	Space Utilization Theory
担当者名/Instructor	渡邊 匡人 乾 友彦 小塚 莊一郎
単位/Credits	2
配当年次/Year of Study	学部1年～4年
時間割/Class Schedule	第1学期 火曜日 2時限 南3-401
副題/Subtitle	宇宙ビジネス創出と宇宙の平和利用

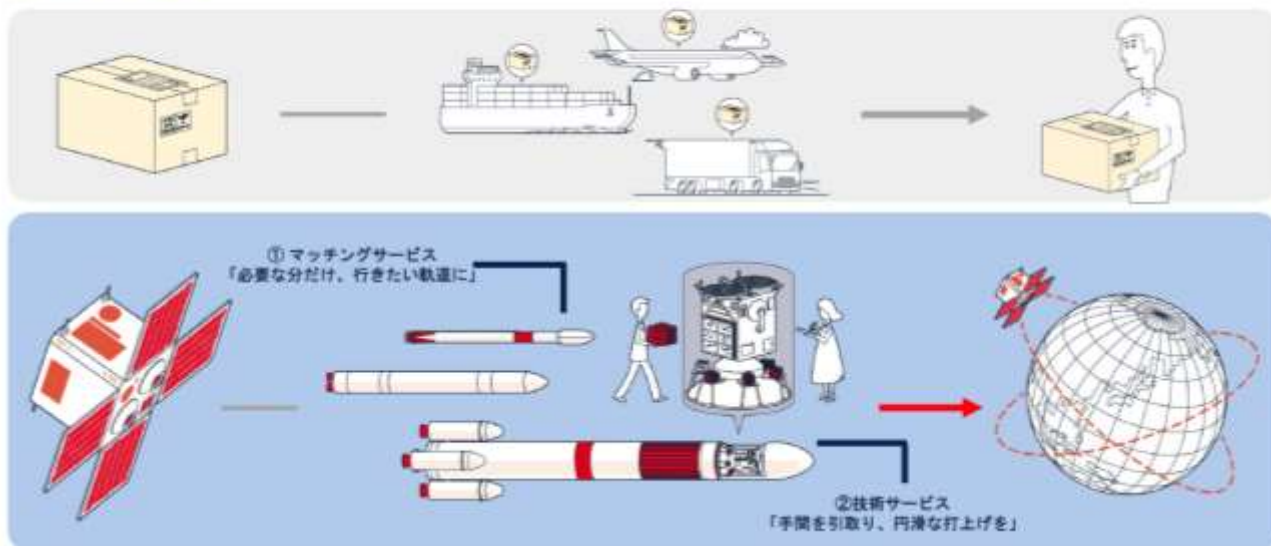
授業概要/Course Description	この講義は、地球を含むすべての天体・宇宙空間を、平和的にかつ持続的に利用していくため SDGs とその先を目指した文理融合の新たな体系構築を目指すものです。宇宙利用の民間事業が現在活発化しており、これまでのように宇宙利用を科学・技術の視点からだけで学ぶだけではなく、全ての学問の立場から学ぶ必要があります。このため、学部を問わず参加できるように各回で取り上げる内容も様々な領域から選んであります。担当教員以外にその分野で現在活躍されている方をゲストスピーカーとして招きますので、現場の様子を直接聞くことができます。		
到達目標/Course Objectives	独自の宇宙利用についてのアイデアを提案することを目指す		
授業内容/Schedule	実施回/Week	内容/Contents	
	第1回	ガイダンス・宇宙利用論を学ぶ目的	
	第2回	宇宙飛行体験：地球環境と宇宙環境の違い	
	第3回	スペースカルチャー（宇宙旅行・宇宙利用のマーケティング）	
	第4回	リモートセンシングと考古学	
	第5回	宇宙利用とSDG's	
	第6回	宇宙法	
	第7回	宇宙における安全保障問題	
	第8回	宇宙関連ベンチャー企業	
	第9回	宇宙ベンチャー企業による授業1：人工衛星の開発	
	第10回	宇宙ベンチャー企業による授業2：人工衛星データ利活用	
	第11回	宇宙ベンチャー企業による授業3：宇宙開発に関わる技術発展	
	第12回	産官学連携による技術開発	
	第13回	海外拠点宇宙関連ベンチャー企業	

授業計画コメント/Comments on the Schedule	各回の講師はガイダンスの際に紹介します。講師の都合で授業内容の順番が変更になる場合があります。		
授業方法/Teaching Method	講師による講義だけでなく、受講者同士のディスカッションや受講者によるプレゼンテーション等を取り入れ、受講者の主体的な学びができるような授業とします。		
使用言語/Language of Instruction	日本語/Japanese	1	英語/English
			日本語・英語以外/Other Language
準備学習(予習・復習)/Class preparation and review	事前に配布した資料を読んでおく(60分)。		

成績評価の方法・基準/Evaluation	評価項目/Criteria	評価配分 (%) / Percentage	備考 / Remarks
	学期末試験(第1学期) / First Term examination		
	学年末試験(第2学期) / Second Term examination		
	中間テスト / Mid-term examination		
	レポート / Reports	30 %	指定した講義回で課されたレポート
	小テスト / Quizzes		
	平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等) / Participation, Attendance, Group Work, etc.	20 %	講義感想の提出で出席とする
	その他(備考欄を参照) / Other(see remarks column)	50 %	録画動画によるプレゼンテーション
成績評価コメント 各目標についてどのような点が評価のポイントになるか、具体的に記入してください。 / General Comments on the Evaluation Criteria:			
得られた知識量ではなく、授業や課題への取り組む姿勢を重視して評価します。			

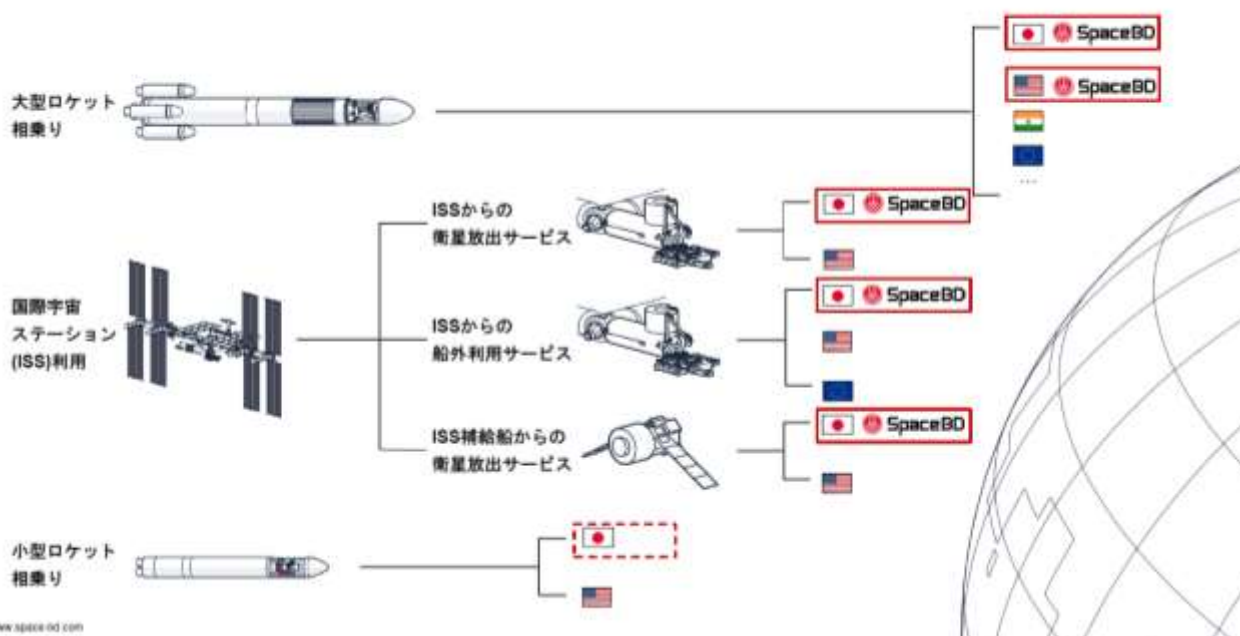
参考文献/Reference Book	1.	書籍名/Title	シリーズ名/Name of series		著作者/Author
		『宇宙の研究開発利用の歴史：日本はいかに取り組んできたか』			渡邊浩崇編著
		出版元/Publisher	版/Edition	出版年/Year	ISBN
		大阪大学出版会		2022 年	9784872597486
	2.	書籍名/Title	シリーズ名/Name of series		著作者/Author
		『宇宙ビジネスのための宇宙法入門』			小塚莊一郎, 佐藤雅彦編著.
		出版元/Publisher	版/Edition	出版年/Year	ISBN
		有斐閣	第2 版	2018 年	9784641126022
	3.	書籍名/Title	シリーズ名/Name of series		著作者/Author
		『宇宙ビジネスの衝撃：21世紀の黄金をめぐる新時代のゴールドラッシュ』			大貫美鈴著
		出版元/Publisher	版/Edition	出版年/Year	ISBN
		ダイヤモンド社		2018 年	9784478068106
	4.	書籍名/Title	シリーズ名/Name of series		著作者/Author
		『小さな宇宙ベンチャーが起こしたキセキ』			永崎将利
		出版元/Publisher	版/Edition	出版年/Year	ISBN
		アスコム		2020 年	4776210967

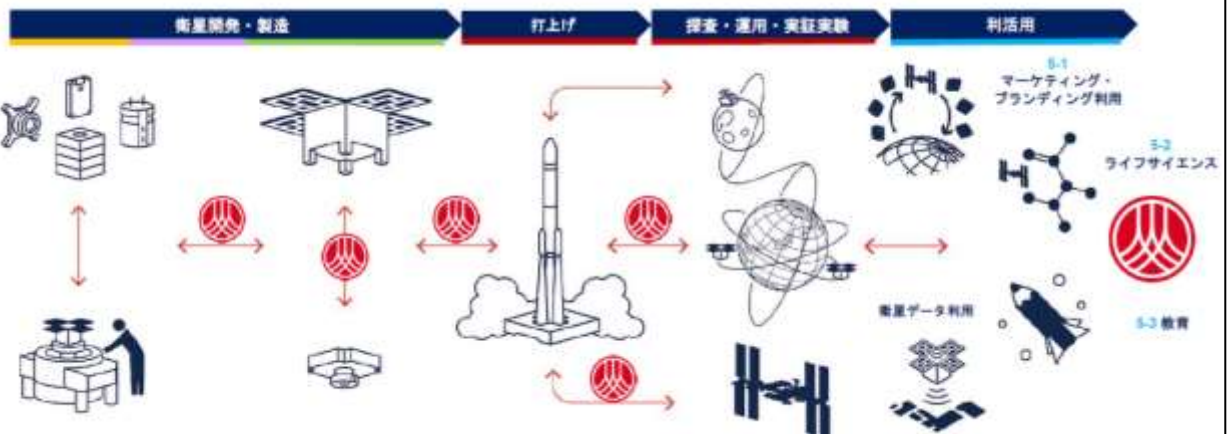
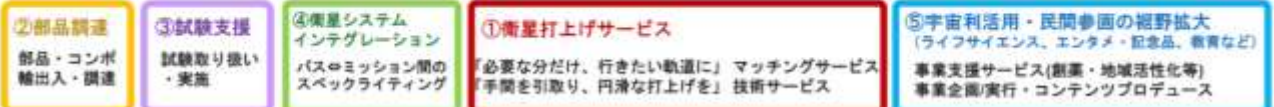
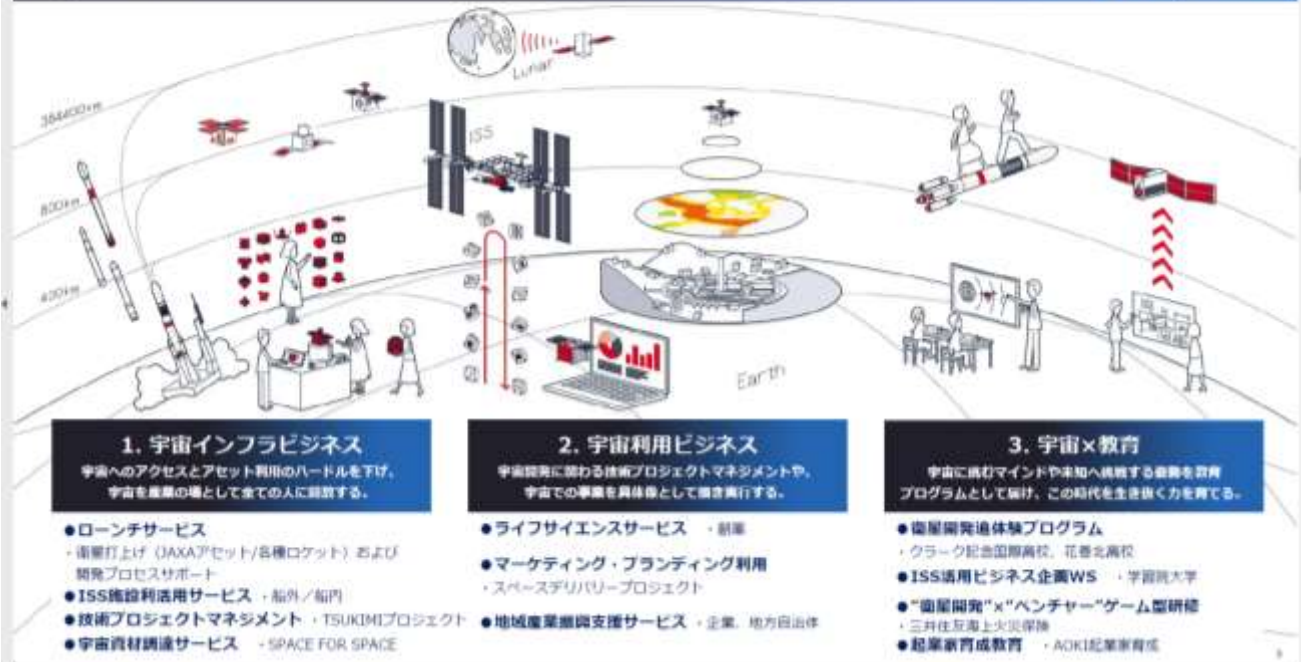
荷物（超小型衛星など）を宇宙空間に届ける輸送事業。当社提供価値は、輸送手段の仕入れ（の柔軟性）と技術サポート。



多岐にわたる宇宙への輸送手段

SpaceBD





講義後のアンケート結果（一部抜粋）

- “宇宙は興味があることがたくさんあります。分からないことだらけだからこそこの授業で宇宙を少しでも理解出来たらいいなと感じました。空気がないってすごい不思議な感覚です。行ってみたいです。”
- 水、炭素、栄養素含めた宇宙での閉鎖環境でも生態系はできるのか気になりました。
- 小3か小4の時に「どうしたら宇宙飛行士になれるか」と質問した学生のことを覚えていましたか。
- “貴重なお話ありがとうございました。宇宙空間での人間の体の変化や桃太郎と浦島太郎のお話面白かったです。乗り物酔いしやすい人は宇宙酔いしやすいのでしょうか。”
- “「人間を宇宙で育てたらどうなるのか」と疑問を持ちました。地球上で生活してる人間が宇宙に行ってそこまでの順応をするなら、宇宙で育てればより宇宙に適応して健康被害も少ない人間進化版ができるのではないかと気になりました。ですが、それは新しい生命体として人間ではないものになってしまう気もするので、新しい闘い等複雑な面もあるかなと想像してます。貴重なお時間を誠にありがとうございました。”
- 専門性の高い方から、宇宙の話を聞くことができ、非常に貴重な講義になりました。
- “貴重なお話を聞くことができました。特に心理面に興味を持ちました。閉鎖的な空間での人間関係やメンタル、ストレス耐性など地上の人間と重なることが多いと思いました。宇宙飛行士向けの保険があるのか、その内容も気になりました。また飛び立つ1日前の過ごし方も気になりました。”
- ロケットから国際宇宙ステーションへはどのように乗り移るのですか？
- “宇宙飛行士の方のお話を聞いたのはとても貴重な機会でした。宇宙に行くまでの訓練などの中で一番キツかったことなど伺ってみたいです。”
- “宇宙飛行士の方のお話を聞くことができ非常に刺激的な講義でした。また宇宙をかなり近くに感じることができました。”宇宙ステーションでの食生活を教えていただきたいと思いました。
- 初めて宇宙飛行士の方から直接お話を聞くことができとても興味深かった。「宇宙にロマンを抱いていなかった」と仰っていたのが意外であったが、それ故に冷静な目で物事を見ることが出来たのかと思った。
- “人生で初めて宇宙飛行士の方からお話を伺ったため、驚くことが多く楽しい時間でした。個人的に質問にも答えていただいて知見が深まりました。ありがとうございました！
- また、宇宙食の中にマヨネーズやソースに似た調味料があることに驚きました。軽くな料理をすることもあるのでしょうか？”
- 初めて宇宙飛行士の方の話を生で聞くことができ面白かったです。宇宙ステーションでは国籍や戦争事情に関係なく仕事ができているという話を聞いて、本当に賢い大人は武力行使を選ばないのだなと思いました。
- （質問）ISS 老朽化によっては 2030 年ごろに運用中止になるという話が出ていますが、もし第二の ISS が作られるとしたら何か改善して欲しいことや期待することがあれば教えて下さい。
- 宇宙ではどんな感覚なのか、宇宙にいて体になんか影響が出るかを知ることができた。
- 今日の授業で宇宙に対する興味が深まった気がした。”
- “本日はありがとうございました！
- 宇宙に行くのにパスポートなどは必要ですか？”
- 地球に帰って来たかったこと、一番最初にしたことはなんですか。

- “宇宙に行くことで、身体の臓器に影響が出る点がとても興味深かったです。貴重なお話を本当にありがとうございました！”
- “本日は貴重なお話をありがとうございました
- 実際に宇宙飛行士の方のお話を聞く機会は初めてだったので、実際にどんな生活をしているのか、どのような仕組みになっているのかなど、興味深いお話がたくさんあり、勉強になりました。医学的観点からの人間の体の変化などが面白かったです。
- 地球を出発して、どれぐらいの時間で宇宙ステーションに到着するのかが気になりました。”
- 宇宙飛行士になる為に肉体的なトレーニングが必要という話はよく漫画やインタビューなどで知っていたが、メンタル的なサポートや地球に帰った後にフィジカルダメージが出ないようにアフターケアがあることに驚いた。
- 非常に興味深いお話ありがとうございました。宇宙での生活や地球に帰ってきた時の社会の見え方のお話を聞けて有意義な時間になりました。我々が生活している地球の環境が当たり前ではないことを改めて知ることができて良かったです。
- 宇宙飛行士が帰ってきた後に立てないということはよく聞いたが筋肉ではなくバランス感覚は原因だということは驚いた
- “貴重なお話ありがとうございました。
 - ・ 宇宙にいる間、なにか想定外なことは起こりましたか？その際はどのように対応しましたか？
 - ・ 地球に帰ってきててもなかなか抜けなかったクセはありましたか？
 - ・ 出発前の訓練や試験で一番辛かった、一番印象に残っているものはなんですか？”
- 今回の授業で宇宙飛行士からお話を聞けるととても貴重な機会をいただいた。地球という、本来人間が生活するところから離れて、軽い赴任みたいな感じだと思うがとてもロマンがあり、自分が今まで聞いたことのない話を聞いた。人間は地球という重力空間で生活するように体が構造されている。実際宇宙空間に行った際、今前とは違う生活様式や、体の構造では体験したことのない無重力を体験し、さまざまな変化が起こるということを今回詳細に教えていただいた。
- 今回が初めて宇宙飛行士の方のお話を聞く機会であったが、ネットで見たり聞いたりしたような情報を超えてくる実際に体験した方からのお話はどれも興味深く、自分の経験では得られない話ばかりだったのでとても楽しかった宇宙ステーションでの時間軸は地球で言うところの地点での時間を基準にしているのか
- 貴重なお話をさせていただいて本当に良かったです。宇宙ステーションの水事情など地上に住んでいる私たちの常識外の話がたくさんありとても興味を惹かれました。
- 自分が想像していた宇宙の生活と異なる点が意外と多くて驚きました。特に、宇宙食はあまり美味しくないイメージがあったのですが美味しく食べられるということが意外でした。宇宙技術がどんどん進歩しているので、いつか宇宙旅行がより普及し、宇宙がより近いものになればいいと感じました。
- 実際に宇宙飛行士の話が聞けて凄かったです！質問にも答えて下さりありがとうございました！
- とても貴重な機会をありがとうございました。日常の話から医学的な話まで面白かったです。ですが、人柄が興味深かったです。謙虚だけど芯のある感じが、こういう人だからこそ宇宙飛行士になるのかなと感じました。質問として、出たゴミはどのタイミングで回収されるのか、回収されたものは地球上に戻ってくるのかなどが気になりました。

- 宇宙飛行士というと軍のパイロット出身者や理工系の人材が多いイメージがありますが、先生が実務を経験した中で欲しいと感じた人材について知りたいです。
- “実際に宇宙で経験したものを聞くことができて面白かったです。
- いちばん興味深かったのは言語のことで、クルーたちが独自で作ったというエピソードが印象的でした。
- 宇宙で食べた中でおいしかった食べ物、おいしくなかった食べ物などあれば教えていただきたいです！”
- 質問です。月に移住するなどの話があがっていますが、実際宇宙に行ってみて、それは民間人にとって現実的なのかどうかを知りたいです。
- 大変ためになる講義でした。地上とISSの方ではこんなにも差があるのかと驚かされました。
- “宇宙の話を知ると、日常とかけ離れすぎていて夢物語のような感じがするものですが、なんだか実感が湧くような現実的な話が聞けて本当に面白かったです。
- ロシアの基地で、先代の宇宙飛行士が残したお酒を見つけて「やったぜ！」というようなシーンを漫画で見たことがあるのですが、ISSのきぼうで先代の日本人宇宙飛行士が残したものは何かありましたか？”
- 貴重な話をいただきありがとうございました。とても面白かったです。
- 実際に宇宙に行った人のお話をお聞きできて、とても貴重な体験になりました。
- 生活排水や実験で出た排水はリサイクルしているとのことですが、排泄物やゴミ等の処分はどうしているのかが気になった。また、宇宙に捨てているのなら問題になるのではないのかと思った。
- 宇宙食って誰でも作れるものなんですか？もし作れるなら基準が知りたいです。1番良かった宇宙食ってなんですか？
- “JAXAや政府から他国の研究のデータを貰ってこいと言われたりして、他国の飛行士と実験データの交換や交渉等をする、或いは非合法的な手段で取って来たりする事はあるのでしょうか。
- 宇宙エレベーターについて、実現可能性や実現した際の社会への影響等、如何お考えでしょうか。”
- “宇宙空間に行ったことがある方の話を聞くことが初めてだったので、とても興味深く今後も宇宙について知りたいと強く思った。
- 当たり前のことが当たり前でなくなる空間であり、その一方で地球と変わらない普通の空間である宇宙は、とても面白い空間であると感じた。”
- 宇宙での生活がかなり詳しく解説されていたのでとても今日興味深かったです。
- “宇宙空間でのとてもリアルな話が聞けて良かったです。
- ありがとうございました。”
- 実際に宇宙に行った人の話を聞けて、とても貴重な体験になった。宇宙ステーションの良いところや不満に思ったところなど、実体験したからこそ言える話が聞けて楽しかった。国の代表でもあり、人類の代表という立場で宇宙ステーションにいと聞いて、すごいことなんだと改めて認識した。
- 排泄物で固形は捨てるという話でしたが、どこに捨てるのですか？
- とても貴重な授業でした。宇宙に行きたい欲がでてきました”
- 実際に宇宙に飛び立った方のお話を聞くことで授業の夢中度も上がり楽しく興味ある充実した105分。
- 宇宙に行く前後で変わった価値観、モノの見方などありましたら教えていただけると嬉しいです。”
- 宇宙、海底、地上で時間の流れの感じ方に違いはありましたか。

- 宇宙ステーションでの生活の様子などネットには載っていないリアルなお話が聴けてとても楽しかったです。私は幼い頃から宇宙に興味があって、何かしらの形で宇宙に関わるような職業に就きたいと思っています。またお会いできるように頑張りたいと思います。
- 無重力にいと目が押されて潰れてしまうというのは非常に面白かったです
- なかなか聴くことができない宇宙にまつわるお話を聴くことができて楽しかった。わかりやすく、丁寧にお話ししてくださったので、より宇宙ステーションに興味湧いた。
- 宇宙にいて、バランス感覚がなくなっていくのはわかっていたが、目が老眼になっていくことには驚いた。体液がのぼっていくと鼻詰まりや鼻声、顔がぷっくりすることを初めて知った。閉鎖的空間の中で、うまくやっていける人とやっていけない人の特徴を調べてみたいと思った。VUCA 時代、大事なものを教えてもらったので、これからの大学生活でそれらを育てていきたい。
- ありがとうございます。元々宇宙に興味があったので面白かったです。「ISS は普通だった」というスタンスが印象に残りました。
- 宇宙酔いの為の訓練などをすると乗り物酔いにも強くなりますか？
- 宇宙飛行士を目指す人の職歴やミッション終了後の活動や進路について
- 興味深い講義で面白かったです。ありがとうございます
- 宇宙での様々な話を聴けてとても興味深かったです。宇宙に実際に行った方にしか説明できないような話が面白かったです。宇宙飛行士は宇宙に行って宇宙の研究をするものだと思っていたのですが、地球での実験を持っていき、宇宙でしかできない実験だったり、宇宙環境を活かした研究が行われていることを初めて知りました。また、宇宙に行くだけならばこれからは宇宙旅行などの機会が増えてくるのも嬉しかったです。

宇宙利用論プレ講義の実施

全体統括会議及び全学共通科目開講では具体的な実施内容として、新入生及び在学生を対象に認知促進と受講生確保を目的とした「宇宙利用論プレ講義」を以下の通り実施した。60 名の申し込みがあった。

指定校推薦や内部進学者には合格書類に以下の案内文を送付した。一般入試入学手続き者には、学習院大学ホームページ及び広報大使 さくまサン ツイッター(@Saku_Gakushuin)において告知した。

令和 7 年 2 月

全学共通科目「宇宙利用論」プレ講義

及び

学習院大学シンガポール研修について（お知らせ）

学習院大学では全学共通科目として、「宇宙利用論」を開講します。その「宇宙利用論」がどういった学びになるのか、広く学生に知る機会になるようプレ講義を開催します。

現在、宇宙利用の民間事業が活発化しており、宇宙利用をこれまでのような理科系の学生だけが学ぶものではなく、文系・理系を問わず様々な観点で学ぶ機会となります。学部学科問わず、宇宙のことを知ることができるプレ講義にぜひご参加ください。参考として、今年度に行われた宇宙利用論のシラバスを裏面に掲載します。

また、宇宙利用論の関連事業として「シンガポール研修」を実施します。「日本の宇宙産業の海外展開を担う人材の育成」が目的です。この目的を達成するために宇宙だけではなく様々な産業の海外展開を学び、その特徴と共通点について考察を深めます。その観点から、宇宙を含む様々な産業が集まり、国際ビジネスの中心であるシンガポールで研修を行います。令和 6 年 9 月に実施した研修の概要を裏面に掲載します。

1. 日時：令和 7 年 3 月 8 日(土) 10:30～12:00
2. 場所：学習院大学目白キャンパス中央教育研究棟 3 階 302 教室
3. 対象：令和 7 年度入学予定者・学習院大学在学生
4. 定員：200 名（先着順）
5. 参加：応募 QR コードから受付フォームにアクセス



担当：学習院大学・理学部・教授・渡邊 匡人

参考1：令和6年度「宇宙利用論」シラバス授業概要

実施 回/Week	内容/Contents
第1回	ガイダンス・宇宙利用論を学ぶ目的
第2回	宇宙飛行体験：地球環境と宇宙環境の違い
第3回	スペースカルチャー（宇宙旅行・宇宙利用のマーケティング）
第4回	リモートセンシングと考古学
第5回	宇宙利用とSDG's
第6回	宇宙法
第7回	宇宙における安全保障問題
第8回	宇宙関連ベンチャー企業
第9回	宇宙ベンチャー企業による授業1：人工衛星の開発
第10回	宇宙ベンチャー企業による授業2：人工衛星データ利活用
第11回	宇宙ベンチャー企業による授業3：宇宙開発に関わる技術発展
第12回	産官学連携による技術開発
第13回	海外拠点宇宙関連ベンチャー企業

参考2：令和6年度「学習院大学シンガポール研修」実施概要

- ・期 間：2024年9月10日(火)～9月14日(土)
- ・目 的：グローバル市場におけるビジネス理解
- ・訪問先

1日目：DBJ Singapore（日本政策投資銀行シンガポール）、LIBERATECH SPACE

2日目：Mapletree、Hamza Hameed（Space & Connectivity）、シンガポール国立大学

3日目：丸紅アセアン、三井住友銀行

- ・参加者：16名（法学部、経済学部、文学部、理学部、国際社会科学部、自然研）

枠内のQRコードから実施概要を確認することができます。↑↑



「宇宙利用論」プレ講義

日 時 : 2025年3月8日(土)
10時30分~12時00

場 所 : 学習院大学 中央教室棟3階302教室
キャンパスMap
<https://www.gakushuin.ac.jp/houjin/kikaku/map/index.html>

本日の学習目標:

- 宇宙環境利用の現状を理解する
- 「宇宙利用論」受講のモチベーションを高める
- 他者とのかかわりで、物事を進めていくことを知る

実施内容:

- ・宇宙利用論の概要説明 (理学部教授 渡邊匡人)
- ・宇宙利用論受講生からのメッセージ
- ・2025宇宙利用論模擬授業とシンガポールインターンシップについて (SPACETAIMENT CEO 榊原華帆)
- ・シンガポールインターンシップ参加者メッセージ
- ・シンガポールインターンシップ参加方法 (11:00~Falcon9 打ち上げライブ配信予定)

2.2 宇宙ビジネス国内及び海外研修実施

宇宙ビジネス国内研修の実施

令和6年11月17日(日)・20日(水)・21日(木)に「宇宙ベンチャー企業研修」を実施し、8名の申込があった。同期間中に日本橋で行われる宇宙産業イベント「NIHONBASHI SPACE WEEK 2024」に学生が宇宙ベンチャー企業 Space BD の研修生として参加した。来場者への企業概要説明や出展企業へのヒアリングなど行った。

「NIHONBASHI SPACE WEEK」は、国内外の政府、宇宙機関、アカデミア(学術団体)、民間宇宙ビジネスなどが参加する世界有数の宇宙産業イベントである。

当日の様子は、令和6年12月22日(日)16時～16時半、BSテレ東「日本が挑む！シン・宇宙ビジネス～ラストフロンティアの引力～」にて放映された。

令和7年2月28日(金)に、Space BD(株)日本橋オフィスにおいて、在学生を対象に「宇宙ベンチャー企業研修」を実施した。学習院大学ホームページ及び広報大使 さくまサン ツイッター(@Saku_Gakushuin)、在学生用ポータルサイト(G-port)において告知した。15名の申し込みがあった。本研修では、Space BD 社員と本学学生が同じグループになり研修を受講した。

研修受講者へのアンケート結果では、参加動機としては、昨年度と同様に宇宙、宇宙利用論、ベンチャー企業、宇宙産業、本研修内容への興味・関心挙げられた。その他には、就職活動準備や宇宙ビジネスにおける新規事業企画立案への興味・関心などがあった。

2024.09.26 その他

【在学生対象】学習院大学宇宙ベンチャー企業研修〔文部科学省宇宙航空科学技術推進委託費関連事業〕

HOME - Events - 【在学生対象】学習院大学宇宙ベンチャー企業研修〔文部科学省宇宙航空科学技術推進委託費関連事業〕

[イベント詳細](#) [リスト](#)

【終了しました】

開催日時

11/17(日) から 11/20(水)

開催場所

Space BD株式会社オフィス（東京都中央区日本橋室町2丁目1-1 日本橋三井タワー 7階）

2024年11月17日(日)・20日(水)・21日(木)に「宇宙ベンチャー企業研修」を実施いたします。本イベントは宇宙商社Space BD株式会社^{【※】}が企画運営を行い、宇宙ビジネスのリアルを肌で感じることができる機会です。

宇宙ビジネスの道を考えていない人も、新しい領域のビジネスを行うベンチャー企業がどのように働いているのかを知るきっかけにもなります。

世界有数の規模で行われる宇宙産業イベント「NIHONBASHI SPACE WEEK 2024」^{【※】}に学生はベンチャー企業の研修生として参加します。来場者への企業概要説明や出展企業へのヒアリングなど行います。

「NIHONBASHI SPACE WEEK 2024」^{【※】}では、国内外の政府、宇宙機関、アカデミア（学術団体）、民間宇宙ビジネスなど、100以上の企業・団体の参加、150を超えるスピーカーの登壇が予定されています。

本事業は文部科学省より採択された宇宙航空科学技術推進委託費「宇宙ルール形成に貢献した文理融合×産官学連携による人材創造プログラム」^{【※】}関連事業です。

将来の宇宙分野の裾野拡大や我が国のプレゼンス強化を目的とし、国際的な宇宙活動ルールの形成等を牽引すべく、理工学領域のみならず、人文・社会科学系の高度な知見を宇宙分野に応用するための人材育成基盤を構築する授業課題として採択を受けました。

【開催日時】

1日目:2024年11月17日(日)13:00～18:00(事前研修)

2日目:2024年11月20日(水)または21日(木)13:00～18:00

【会場】

Space BD株式会社イベントスペース

(東京都中央区日本橋室町2丁目1-1 日本橋三井タワー 7階)

【参加費】

無料(現地までの交通費自己負担)

【参加人数】

先着25名

申込締切:2024年11月11日(月)17:00

定員:30名【学習院大学在学生対象】

学習院大学「宇宙利用論」 国内ベンチャー企業研修

参加費 無料

2023 年度より全学共通科目として開講された「宇宙利用論」では、宇宙に関連するさまざまな分野について、各界で活躍するゲスト講師をお招きし講義を行っています。今回の「国内ベンチャー企業研修」は、講義だけでは得られない実際の宇宙ベンチャー企業のリアルな現場を体感できます。

「宇宙利用論」を履修していない方や、宇宙ビジネスについて全く知識のない方でも気軽にご参加いただけます。宇宙ビジネスに興味がある方、あるいは新たな視点を得たい方にとってぴったりのプログラムです。また、多くの社会人と交流する機会が用意されており、参加者が自身のキャリアについて考えるきっかけにさせていただくこともできます。



2025 年
2 月 28 日(金) 13:00~18:00



Space BD 株式会社
イベントスペース

東京都中央区日本橋室町2丁目1-1
日本橋三井タワー 7階
宇宙ビジネス展示会会場



定員先着 **25** 名



こちらの QR からお申込み
2025 年 2 月 21 日(金)17 時
までにお申し込みください



対象者：学習院所属の学部生・大学院生

コンテンツ	詳細
宇宙ビジネス概論	宇宙産業の主要セクターと最新動向を体系的に解説。実際の企業やプロジェクト事例を交え、宇宙ビジネスの現状と将来展望を考察します。宇宙の知識がない方に対して、理解を深めることができる内容です。
ビジネスシミュレーションロールプレイ	実際の社会人にたいして、自分の考えを伝えるロールプレイを通じて、就活などに役立つような社会人基礎力を身につけます。
宇宙ビジネスゲーム	ボードゲーム形式で、宇宙ベンチャーの経営を資金調達、人材採用、資材調達、製造、打ち上げと経験します。その中で、宇宙ベンチャーがどのような状況でビジネスを行っているのかを追体験します。

過去の参加者の声



自分が宇宙についても、その他、社会に出るということについても何も知らないことを知りました。知らないということは、これから知って勉強できることがたくさんあるということだとも思います。

経済学部 3 年生



社会人がどういう意識を持った人のことをいうのか、少し理解することができました。また、研修後のフィードバックも、自分に足りない部分を知ることができたため、大変参考になりました。今後の自分の成長に繋げたいと思います。

理学部 2 年生



協力



問い合わせ先

理学部 担当：渡邉

✉ masahito.watanabe@gakushuin.ac.jp



学習院大学「宇宙利用論」
国内研修

Space BD株式会社
2025.2.28

本日の流れ

時間	実施内容
13:00	イントロダクション
13:10	ビジネスゲーム
15:00	ビジネスシチュエーションロールプレイ
17:30	リフレクション
18:00	終了

宇宙ビジネス X ベンチャー経営

ビジネスゲーム



宇宙ビジネスゲームの進め方

ゲームの流れ

ミッション選定

資金調達

人材採用

資材調達

衛星開発

衛星の打ち上げ

ビジネスシチュエーション ロールプレイ

流れ

1. 事業説明の練習を行う
2. Space BDの社員に対して説明を行う
3. フィードバックを受ける
4. 自由対話

宇宙ビジネス海外研修の実施

令和6年9月10日(火)から9月14日(土)に「宇宙ビジネス海外研修」を実施し、16名の申込があった。目的は、「日本の宇宙産業の海外展開を担う人材の育成」である。日本産業における主要海外拠点のひとつであるシンガポールを研修地として、宇宙だけではなく様々な産業の海外展開を学んだ。

本研修では学生を引率しシンガポールの様々な企業を訪問した。3泊5日のプログラムでは、宇宙産業、銀行、不動産などの現地企業を訪問し、現場で働く方々から日本企業の海外展開戦略や国際市場でのビジネス運営について講義を受け意見交換を行った。

【実施報告】学習院大学シンガポール研修 〔文部科学省宇宙航空科学技術推進委託費関連事業〕

文部科学省宇宙航空科学技術推進委託費事業の一環として、学習院大学シンガポール研修を実施しました。目的は、「日本の宇宙産業の海外展開を担う人材の育成」です。日本産業における主要海外拠点のひとつであるシンガポールを研修地として、宇宙だけではなく様々な産業の海外展開を学びました。

本研修では学生を引率しシンガポールの様々な企業を訪問しました。3泊5日のプログラムでは、宇宙産業、銀行、不動産などの現地企業を訪問し、現場で働く方々から日本企業の海外展開戦略や国際市場でのビジネス運営について講義を受け意見交換を行いました。

学習院大学シンガポール研修実施概要

★期 間：2024年9月10日(火)～9月14日(土)

★目 的：グローバル市場におけるビジネス理解

★訪問先

1日目：DBJ Singapore (日本政策投資銀行シンガポール)、LIBERATECH SPACE

2日目：Mapletree、Hamza Hameed (Space & Connectivity)、シンガポール国立大学

3日目：丸紅アセアン、三井住友銀行

★参加人数：16名(所属：法学部、経済学部、文学部、理学部、国際社会科学部、自然科学研究科)

★同行者：理学部 教授 渡邊 匡人、国際社会科学部 教授 乾 友彦

★記録写真



↑ DBJ Singapore (日本政策投資銀行シンガポール) [🔗](#)



↑ LIBERATECH SPACE PTE. LTD. [🔗](#)



↑ Mapletree



↑ Hamza Hammed (Space & Connectivity)



↑ シンガポール国立大学

(Satellite Technology and Research (STAR) Centre)



↑ 丸紅アセアン



↑ 三井住友銀行

本学教員・受入企業・企画運営企業からのコメント



学習院大学 理学部 教授
渡邊 匡人

学習院大学シンガポール海外ビジネス研修プログラムは、「日本の宇宙産業の海外展開を担う人材の育成」のために企画しました。この目的を達成するためには宇宙だけではなく様々な産業の海外展開を学び、その特徴と共通点について考察を深めたいと考えました。その観点からは、宇宙を含む様々な産業が集まり、国際ビジネスの中心であるシンガポールで研修を行うことが必要不可欠であると判断しました。

本研修では学生を引率しシンガポールの様々な企業を訪問しました。3泊5日のプログラムでは、宇宙産業、銀行、商社などの現地企業を訪問し、現場で働く方々から日本企業の海外展開戦略や国際市場でのビジネス運営について理解を深めました。



Yasu Yamazaki
Co-Founder, CEO & CMO
LIBERATECH SPACE PTE.
LTD.

学習院大学の学生の皆さんがシンガポールでの研修を通じて、グローバルビジネスの最前線を実際に体感し、その場に少しでも貢献できたことを大変嬉しく思っています。研修後、多くの学生からポジティブなフィードバックを直接いただき、彼らの成長や新たな視点に触れることができたのは本当に素晴らしい経験でした。

今回の研修では、異なる業界を代表する4社とのミーティングを通じて、さまざまな角度から学びを深める機会をご提供させて頂きました。私がCEOを務めるLiberatech Spaceは、宇宙ビジネスにおける革新をリードしています。DBJ Singapore(日本政策投資銀行シンガポール)は、日本企業の海外進出を支援し、特にシンガポールを含む東南アジア、インド、オーストラリア市場への展開をサポートしています。Mapletreeは、シンガポール政府が筆頭株主の不動産開発と投資運用のリーダー企業として、グローバルな視点から事業を展開しています。そして、シンガポール国立大学の宇宙開発部門は、長年にわたってシンガポール政府向けの衛星を開発・製造しており、最先端の技術を学生たちに示しました。

これらの企業や大学のトップと直接交流し、学生の皆さんがそれぞれの現場で得た経験や知見が、今後のキャリアに大きなインスピレーションとなることを願っています。来年もぜひ、シンガポールでお会いできるのを楽しみにしています！



SPACETAINTMENT株式会社

この度、学習院大学のシンガポール研修の企画・運営を弊社にお任せいただき、大変光栄に存じます。宇宙産業をはじめ、多様な分野のグローバルビジネス環境を学生たちが体験し、将来のキャリア形成に向けた貴重な学びの機会をご提供できたことを嬉しく思っております。企業訪問や専門家との対話を通じ、学生たちは国際市場におけるビジネス戦略や宇宙産業の現状について深く学び、今後のキャリア選択に活かせる大きなヒントを得られたと感じております。

私たちSPACETAINTMENT株式会社は、今後もこのような機会を提供し、未来を担う人材がグローバルに活躍できるよう、引き続きサポートしてまいりたいと考えております。

2.3 宇宙法模擬裁判大会、国際シンポジウム実施

宇宙法模擬裁判大会実施



学 習 院 大 学
GAKUSHUIN UNIVERSITY



Asia-Pacific Regional Round
33rd Manfred Lachs
Space Law Moot Court Competition

2024

International Institute of Space Law
&
Gakushuin University

8-10 June 2024, Tokyo, Japan

Supported by
Ministry of Foreign Affairs of Japan
National Space Policy Secretariat of the Cabinet Office of Japan
Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA)

Schedule

■Day 1- 8 June Saturday

08:30-09:15 Registration
09:15-10:00 Briefing to the teams & group photo
10:00-13:00 Preliminary Round 1
13:00-14:00 Lunch
14:00-17:00 Preliminary Round 2

■Day 2- 9 June Sunday

09:00 Quarter-finalist announcement
09:30-10:45 Quarter-final
10:45-12:00 Lunch
11:30 Semi-Finalist announcement
12:00-13:15 Semi-Final
13:45 Finalist announcement
14:00-15:15 Final
16:00-18:30 Award Ceremony & Closing Reception

■Day 3- 10 June Monday

13:00-16:00 International Symposium

Address of the competition venue:

Gakushuin University
1-5-1 Mejiro, Toshima-ku, 171-8588
Tokyo, Japan

Website: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/en/>



Chamber of the Final Round

Participants

Name of University and country in alphabetical order. Team number is not reflected on this table.

1. Beihang University, China *
2. Beijing Institute of Technology, China
3. China University of Political Science and Law, China *
4. City University of Hong Kong, China
5. East China University of Political Science and Law, China *
6. Gujarat National Law University, Gandhinagar, India *
7. ILS Law College, Pune, India
8. Jindal Global Law School, O.P. Jindal Global University, India
9. Keio University, Japan
10. Maharashtra National Law University, Mumbai, India
11. Maharashtra National Law University, Nagpur, India
12. National Academy of Legal Studies and Research (NALSAR) University of Law, India *
13. National Law Institute University, Bhopal, India
14. National Law School of India University, Bengaluru, India *
15. National Law University, Delhi, India *
16. National Law University, Jodhpur, India
17. National University of Advanced Legal Studies, India *
18. National University of Singapore, Singapore
19. Peking University, China *
20. Prince Sultan University, Saudi Arabia *
21. School of Law, CHRIST (Deemed to be University), Bengaluru, India
22. School of Law, Northern University of Malaysia, Malaysia *
23. Shen Zhen University, China
24. Singapore Management University, Singapore *
25. Symbiosis Law School, Pune, India
26. Waseda University, Japan *
27. West Bengal National University of Juridical Sciences, Kolkata, India *
28. Wuhan University, China *
29. XiangTan University, China
30. Zhongnan University of Economics and Law, China *

* Selected to participate in oral rounds.

Summary of the Problem

ANGANI vs BOLVANGER

Case Concerning the Protection of Dark and Quiet Skies and the Freedom of Scientific Investigation

BOLVANGER, a highly developed spacefaring nation, has decided to issue a license to a private company, KRONOS Limited, to launch the TandaNet satellite constellation, intended to provide global broadband services, especially to remote and conflict zones. Shortly after the first generation TandaNet commenced launch in 2026, astronomers and scientists raised concerns regarding the brightness emitted by TandaNet satellites. In addition, a first-generation TandaNet satellite, HJR-3, became uncontrollable.

Concurrently, the Gallivespian Space Organisation ("GSO") was established with 31 Member States, including ANGANI, and developed, as its first project, a space-based telescope KirR, aiming to revolutionize astronomical investigations. Despite delays and internal pressures, KirR launched at the end of 2030 from ANGANI, but collided with HJR-3, rendering KirR inoperative and creating widespread debris that reduced the lifespan of the remaining TandaNet satellites.

Later that same year, BOLVANGER announced the construction of the TAO telescope for advanced celestial imaging, with an emphasis on detecting near-Earth asteroids. The international scientific community lauded the endeavor. GSO announced its second project - the NYX³ satellite constellation. The first batch of NYX³ satellites were launched from ANGANI. When the TAO telescope began operations later that year, it encountered significant distortions in its imaging due to the interference of satellite constellations, particularly from the NYX³ satellites. The nonreflective coating on these satellites inadvertently emitted light on wavelengths the TAO was calibrated to detect, thereby compromising its function.

In 2032, unable to find a resolution to by diplomatic consultations, ANGANI and BOLVANGER have agreed to present the case to the International Court of Justice for adjudication.

Submissions to the Court:

The Republic of Angani requests the Court to adjudge and declare that:

- a. Bolvanger violated international law by failing to properly supervise KRONOS' space activities with respect to the TandaNet constellation, including the satellite HJR-3;
 - b. Bolvanger is liable under international law for all damages for the total loss of the KirR telescope, including any loss of profit;
 - c. Angani is not responsible and liable under international law for the diminished lifespan of the TandaNet satellites or for the inoperability of the TAU telescope;
- And to dismiss all claims to the contrary.

The Federal State of Bolvanger requests the Court to adjudge and declare that:

- a. Bolvanger acted in conformity with international law by properly authorising and continuously supervising KRONOS' space activities, including with respect to the satellite HJR-3;
 - b. Bolvanger is not liable under international law for the loss of the KirR telescope ;
 - c. Angani is responsible and liable under international law for the diminished lifespan of the TandaNet constellation and for the inoperability of the TAU telescope;
- And to dismiss all claims to the contrary.

Judges

Judges for the Final Round

Ambassador Dr. Kimitake Nakamura, Ministry of Foreign Affairs, Japan

Prof. Dr. Steven Freeland, Western Sydney University, Australia

Prof. Dr. Kai-Uwe Schrogl, European Space Agency, France



Dr. Steven Freeland



Dr. Kimitake Nakamura



Dr. Kai-Uwe Schrogl

Judges for Oral Pleadings

1. Mr. Adam Reynolds, Proficio Pty Ltd, Australia
2. Mr. Azusa Kikuma, Ministry of Foreign Affairs, Japan
3. Mr. Gopalakrishnan V., National Institute of Advanced Studies (NIAS), Bengaluru, India
4. Mr. Julien Mariez, Centre National d'Etudes Spatiales / Embassy of France in Japan, France
5. Prof. Kento Nisugi, Osaka University, Japan
6. Ms. Mai Kurano, Anderson Mori & Tomotsune, Japan
7. Prof. Manami Sasaoka, Yokohama National University, Japan
8. Dr. Masahiko Fukushima, Japan
9. Prof. Melissa de Zwart, Adelaide University, Australia
10. Mr. Moeto Yamaguchi, Nishimura & Asahi, Japan
11. Prof. Sanitya Kalika, Jindal Global Law School, India
12. Mr. Shimpei Ishido, Nishimura & Asahi, Japan
13. Ms. Shizusa Hisakawa, GVA Law Office, Japan
14. Mr. Suguru Saito, TMI Associates, Japan
15. Mr. Takahiro Abe, Japan Air Self Defense Force, Japan
16. Mr. Tatsuhiko Makino, Anderson Mori & Tomotsune, Japan
17. Dr. Vernon Nase, Formerly City University of Hong Kong, Australia
18. Ms. Yangzi Tao, Keio University, China
19. Prof. Yurika Ishii, National Defense Academy, Japan

Organizers

Program Organizers

Prof. Dr. Masahito Watanabe, Programme Director of Gakushuin University, Japan

Prof. Dr. Souichirou Kozuka, Gakushuin University, Japan

Prof. Dr. Tomohiko Inui, Vice-President, Gakushuin University, Japan

Research Support Center, Gakushuin University, Japan

Local Organizing Committee



Prof. Dr. Souichirou Kozuka, Gakushuin University (Chief Director)

Prof. Dr. Setsuko Aoki, Keio University (General Advisor)



Prof. Masahiko Sato, Gakushuin University (External Relations)

Dr. Yu Takeuchi, Keio University (Operations)



Ms. Yui Nakama, European Space Policy Institute (ESPI) Global Fellow (Teams Relations)



Mr. Shunshi Deguchi, Sophia University (Public and Judge Relations)



Ms. Reiko Kawai, Waseda University (Chief Clerk)



Mr. Bryant Mishima-Baker, United States Air Force (Memorials Coordinator)

Mr. Kenichi Sakamoto, Hankyu Hanshin Business Travel
(Travel and Logistics)



Mr. Makoto Sato, Gakushuin University
(URA: University Research Administrator)

「宇宙におけるルール形成と持続可能性」 シンポジウム

- ・ 日時: 6月10日(月) 13:30~17:00
- ・ 場所: 学習院大学目白キャンパス、創立百周年記念会館
- ・ 言語: 日本語、英語(同時通訳あり)
- ・ プログラム

本シンポジウムは会場参加のみです。オンライン配信はありません。

司会 小塚荘一郎(学習院大学教授)

開 会

1. 持続可能な宇宙利用のためのルール形成

- ・ Kai-Uwe Schrogl氏(国際宇宙法学会会長)
- ・ 青木節子教授(慶応義塾大学教授、国際宇宙法学会前副会長)
- ・ Steven Freeland教授(ウェスタンシドニー大学名誉教授)
- ・ 中村仁威氏(外務省大臣官房審議官)

2. 宇宙利用と地域社会

- ・ 北海道大樹町(Space Cotan株式会社代表取締役 小田切義憲氏)
- ・ 福井県大野市(同市地域経済部観光交流課 道鎮郁生氏)
- ・ 岩手県花巻市(県立花巻北高校教諭 川口潤氏)

3. 次世代パネルディスカッション「宇宙利用の持続可能性と宇宙利用による持続可能な開発」

- ・ 有吉志満氏(早稲田大学大学院)/新見奈緒子氏(株式会社アークエッジ・スペース)/仲間悠衣氏(Secure World Foundation, Summit Local Representative)/森岡悠輔氏(東京大学法学部)/若生礼奈氏(JAXA調達部推進課)
- ・ [司会]黒須聡氏(Cross Space & Sustainability, LLC)

※「本シンポジウムは、文部科学省宇宙航空科学技術推進委託費「人文社会×宇宙」分野越境人材創造プログラムの課題として採択された「宇宙ルール形成に着目した文理融合×産官学連携による人材創造プログラム」の一環として、国際宇宙法模擬裁判アジア太平洋地区大会に引き続いて実施されるものです。

お申し込みはQRコードまたは以下のリンクからどうぞ

3 まとめ(令和4年度から令和6年度)

令和4年度から6年度における実施内容は、以下の通りである。

令和4年度は各事業実施に向けた事前準備を行った。

①全体統括及び全学共通科目開講準備

a.全体統括

事業全体の進捗を把握するため、統括会議を3回開催した。

b. 全学共通科目開講準備

令和5年度に開講予定の全学共通科目「宇宙利用論」準備のために、人文・社会・自然科学の研究者による担当講師の調整、講義内容及び資料の確認を行うなど講義計画を策定した。

②国内研修及び海外インターンシップ事前調査

令和5年度の実施に向けて、国内研修及び海外インターンシップ事前調査を行った。具体的には、宇宙ベンチャー企業と連携して宇宙技術開発の現状を学び新たな宇宙ビジネスの提案を行う国内研修を実施した。海外インターンシップ候補先として10社程度を選定し、実施時期や実施内容について交渉を行った。一部については現地にて最終確認を行う代わりに、オンラインによる海外インターンシップや、海外との連携に強みを持つ国内企業との連携を検討した。

③宇宙法模擬裁判大会事前調整、国際シンポジウム

令和5年度に本学にて実施予定の宇宙法模擬裁判大会に向けて、国際宇宙法学会の世界本部(フランス・パリ)を訪問し、理事会において宇宙法模擬裁判大会アジア・太平洋地区大会の日本開催(学習院大学での実施)が承認された。その後、本事業の取組が国際宇宙法学会において高く評価されたため、世界本部から理事やアジア・太平洋地区大会において裁判判事の候補者となる研究者の代わりに会長を招へいし、学習院大学の現地視察を行った。招へい者の都合により本学一般入試期間中の訪問となったことから、宇宙法に関する国際シンポジウムを開催する代わりに、研究協力者の所属する慶応義塾大学が主催した宇宙法シンポジウムにおいて招へい者及び研究協力者による講演を行った。

令和 5 年度における実施内容は、以下の通りである。

① 全体統括及び全学共通科目開講

a.全体統括 事業全体の進捗を把握するため、統括会議を 3 回開催した。

b.全学共通科目開講

全学共通科目「宇宙利用論」を開講した。人文・社会・自然科学の研究者による講義を実施した。また、外部機関（Space BD、アークエッジスペース、東京海上日動等）と連携して講義を実施した。

令和 6 年度の大学入学予定者向けにプレ講義を実施し、履修者数確保に向けた積極的な取り組みを行った。

② 宇宙ビジネス国内研修実施及び海外インターンシップ原案作成

宇宙ビジネスに関する国内研修を実施し、海外インターンシップ原案を作成した。

国内研修については、令和 4 年度に引き続き Space BD と連携して宇宙技術開発の現状を学び新たな宇宙ビジネスの提案を行う研修を実施した。

海外インターンシップについては、令和 4 年度に選定した候補先と実施時期や実施内容について交渉し、令和 6 年 9 月に実施することで合意した。参加学生の感染症対策及び高騰する旅費や受入機関の体制を考慮し、現地訪問またはオンライン受講の両面から実施方式を検討した。現地訪問が実施できない場合はオンライン受講形式で実施することとした。

第 67 回宇宙科学技術連合講演会での研究報告及び研究交流を通じて協力機関を増やし、研修内容の充実に向けた取り組みを行った。

③ 宇宙法模擬裁判大会アジア・太平洋地区大会及び国際シンポジウム実施

宇宙法模擬裁判大会アジア・太平洋地区大会及び終了後に関連事業として大会参加者や国内外の宇宙法研究者による国際シンポジウムを実施した。模擬裁判大会については書類選考の上 12 チームを招へいした。裁判官役として国外 2 名、国内 16 名の研究者を招へいした。実施本部である IISL の Steven Freeland 氏、Gopalakrishnan 氏を招へいした。模擬裁判大会実施に併せて宇宙法に関する国際シンポジウムを開催した。

令和 6 年度に向けて、日本チームの参加を促進するために積極的な取り組みを行った。具体的には、国際法学会、APRSAF-29、第 67 回宇宙科学技術連合講演会、第 19 回宇宙法模擬裁判日本大会において宇宙法関係者に宇宙法模擬裁判大会告知及び日本チーム参加募集を行った。

令和 6 年度は以下の通り各事業を実施した。

① 全体統括及び全学共通科目継続開講

a.全体統括 事業全体の進捗を把握するため、統括会議を 4 回開催した。

b.全学共通科目継続開講

全学共通科目「宇宙利用論」を継続開講した。人文・社会・自然科学の研究者による講義を実施した。また、宇宙ベンチャー企業等の外部機関と連携して講義を継続実施した。

令和 7 年度の大学入学予定者向けにプレ講義を実施し、履修者数確保に向けた積極的な取り組みを行った。

② 宇宙ビジネス国内及び海外研修実施

宇宙ビジネスに関する国内及び海外研修を実施した。

国内研修については、令和 5 年度に引き続き宇宙ベンチャー企業と連携して宇宙技術開発の現状を学び新たな宇宙ビジネスの提案を行う研修を実施した。

海外研修については、海外現地訪問による海外研修を実施した。日本の宇宙産業及びその他の企業から、事業を海外展開する際の現状と課題について学んだ。

③ 宇宙法模擬裁判大会アジア・太平洋地区大会及び国際シンポジウム実施

宇宙法模擬裁判大会アジア・太平洋地区大会及び終了後に関連事業として大会参加者や国内外の宇宙法研究者による国際シンポジウムを実施した。模擬裁判大会については書類選考の上 16 チームを招へいた。裁判官役として国内外から研究者と実施本部である IISL 理事等の関係者を合計 22 名招へいた。模擬裁判大会実施に併せて宇宙法に関する国際シンポジウムを開催した。

4 添付資料

なし